

でも。その私がワクワクしていることなんて、誰も知らない。

『子どもに語るアジアの昔話』

この本をおばあちゃんの家で見つけたとき、ドキッと体温が上がった。象、植物、鳥たちが描かれた表紙のイラストは、とつてもエキゾチックな香りがした。

もしかしてと期待を込めて、目次のページを開くと……。「あつた、フィリピン！」

おばあちゃんの前で思わず声をあげてしまった。

目次には、昔話のタイトルと国名が書いてある。タイ、インド、パキスタンといった国々と並んで、フィリピンの昔話も載っていた。

「の花ちゃん、フィリピンに興味があるの？」

「あ、うんちよと……。おばあちゃん、フィリピンの昔話も図書館で語ったことあるの？」

オンライン英会話を秘密にする必要はないのに、何となくごまかしてしまった。

「フィリピンはまだないねえ。昔話って世界中に、たくさんあるから」

「ねえ、おばあちゃん。この本、借りてもいい？」

「もちろん、いいわよ。ちよつと待って、その本の二巻も持ってたはず……」

「ほんとっ？」

そうしておばあちゃんが探し出してくれた二巻目。この二冊に載っているフィリピンの昔話は、合計三つだ。

おばあちゃんが本を紙袋に入れてくれると、まるでケーキが入っているみたいに心が躍った。ジョシユア先生も子どものころに聞いた昔話かもって。

ゴールデンウィーク中に全部読んでしまったけれど、私はこの本を学校で読むためにバッグに入れた。

話す人がいない休み時間でも、この本を開けばきつと寂しくない。ジョシユア先生の住んでいる場所につながるこゝとができる。そんな気がした。

三つの昔話のうち、私が一番のお気に入りには、「漁師の娘」。主人公は、漁師の父を持つマリキットという少女。

マリキットは、湾の神で半人半魚（一）姿のマクシルによつて誘拐されるけれど、強い気持ちで家に帰ろうとする物語だ。

マクシルの姿を想像するのも面白いし、マリキットの勇気はカッコいいと思った。フィリピンの海のそばで暮らし、冒険をしたマリキットが、ちよつとうらやましい。

五月の連休中はオンライン英会話も休講で、今日は約二週間ぶりのレッスンの水曜日。

カフェの値段の話をして以来だったから、ちよつと緊張する。ジョシユア先生に嫌われていたらどうしよう。